

例えは道路関係の建設工事では道路土工指針に準じて進められておりませんが、これは基本的には現場打ちコンクリートの指針であり、二次製品についてはそのつどの要望に応じて各社がバラバラの提案をしているという状態でした。

二次製品メーカーとしての声を社会資本に反映するためには、業界が大同団結しなければなりません。そこで平成26年度に道路プレキャストコンクリート製品に関する設計・製造・施工技術の向上や調査研究に取り組むことを目的とした「道路プレキャストコンクリート製品技術協会」が発足しました。現在、正会員は93社でゼニス羽田もコンクリート製品メーカーとして協会の発展のために努力しています。仕

◆下水道事業への思い
下水道事業全体の方向性について、国の「新下水道ビジョン」「新下水道ビジョン加速戦略」により社会情勢の変化を踏まえ、今後の取組みが示されています。多くのヒントが提示されている中で、コンクリート二次製品が採用されています。耐震性、ムリリング継手付ボックススカルパートSJBBOXも陸前高田市、名取市ほか多くの復興現場で採用されています。

震災の直後は、防潮堤など多くのコンクリート製品の需要がありました。ゼニス羽田として、あくまで得意分野の下水

◆現下の社会情勢を俯瞰して
今後、日本で生産年齢人口が減少することが予想されている中、国は建設分野での生産性向上を図る「i-Construction」を進めています。

私の出身であるゼニス羽田は関東から東北に強みを有し、一方でホクコンは北陸、東海と近畿以西が強く、両社を合わせると本州のニーズはおおむね網羅できるといえます。例えば、ホクコンは関東には製造拠点、な

らびに営業拠点とも手薄です。同様にゼニス羽田も関東地域に重きを置いているので、関西が手薄になり、ニーズをキャッチ

していても手が回りません。そこで互いに補充することで、それぞれが有する潜在能力が最大限に発揮できるようにするのが

ゼニス羽田は下水道分野をはじめ水関係の地下構造物に強みを有しますが、ホクコンは道路、鉄道、民間住宅地の造成に実績を積み重ねてきたという得意分野の違いもあります。そこで、関西ではホクコンの営業力をもつて、ゼニス羽田が得意とする下水分野の事業を伸ばし、また逆に関東でも、ホクコンが得意とする道路等の需要についてゼニス羽田が有する地の利を活かして新たに掘り起こすといった、シナジー効果による新たな展開を図っていきます。



氏秀明 土屋 代表取締役社長 株式会社ベルテクスコーポレーション

道事業での需要の掘り起こしに努めました。その結果が花開き、SJBBOXやそれに付随する組立式マンホール、浸水対策用の内圧管として活用されているセミシールドパイプ（下水道推進工法用ガラス繊維鉄筋コンクリート管）など多くの製品を復興事業に合せて納入することができました。

目先の製造トン数に惑わされず、下水道や地下水路関係に強いという自社の強みを活かして耐震および浸水対策のニーズに注力した結果、震災復旧復興関係需要が一段落して東北地方での実績が減りながらも、関東、中部、近畿の需要増で東北の減を補っているのが現状です。自社の進むべき立ち位置をしっかりと定め得意分野を伸ばしたことが、企業としての持続・発展につながるのです。

浸水対策では、雨水の流出抑制を目的としたプレキャスト式雨水地下貯留施設の導入が全国で進んでいます。こうしたニーズを踏まえ、日本下水道新技術機構は「プレキャスト式雨水地下貯留施設技術マニュアル」の改定に向けた共同研究を進めています。今回の改定では、従来SJBBOX型・スタンド型に加えて、ホクコンが開発した雨水貯留槽「M・V・P・システム」の構造形式が、新たに門型として盛り込まれる予定です。優秀な製品のラインナップが増えれば、発注者である地方公共団体にも地形や深さに応じて最適な形式を選べるといった選択肢が増えます。遊水池自体のバリエーションの底上げにつながるため、業界全体を盛り上げていきたいと思

戦後から高度経済成長期にかけて整備されたコンクリート構造物は老朽化が進行し、近年、補修・補強の予算が増加しています。補修メンテの重要性について私は20年前から認識してはいましたが、それに関するアクションを起こすことがなかなかできませんでした。

一方でホクコンは、メンテナンス時代の到来を見越し、農業水利施設を中心に多くの補修・補強の実績を積み重ね、また平成22年にはインフラ保全技術協会の設立しました。同協会はコ

ンクリート構造物を主とした長寿命化技術の普及を図り、社会資本維持の補修事業の発展に貢献することを目的としたもので、現在、正会員22社、施工会員28社の大きな組織に成長しました。ゼニス羽田と子会社ゼニス建設も入会し、こうした知見を下水道分野に広めるべく努めているところです。

◆経済界に求められること
ベルテクスコーポレーションのタグラインは「安心のカタチを造る」です。モノづくりはも

ない未来を迎えるに当たって、従来のモノづくりだけでは持続できないでしょう。私たちコンクリート二次製品メーカーが何を提案できるのか、今のうちから真剣に考えなければならぬのです。

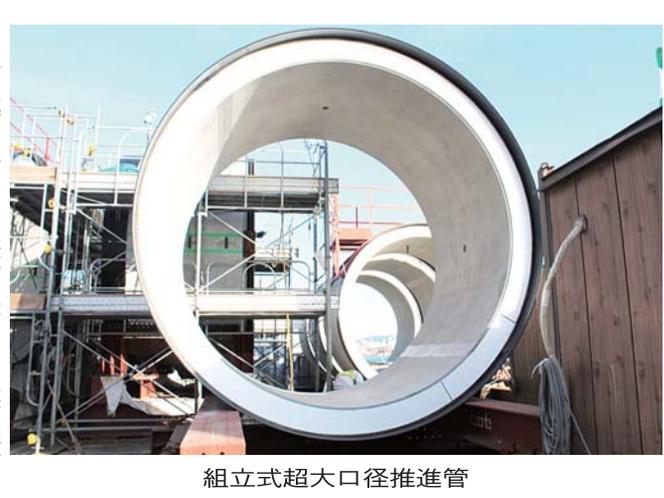
公共投資の抑制に伴う新設工事の減少といった状況が長く続き、二次製品メーカーは、生産性を高める努力を行ってきませんでした。今後も、ますますの需要減が見込まれるので、生産性向上といった意識が持ちつらいかもれません。しかし少子

高齢化による人材減も進む中、現状の生産性ですと、社員はますます疲弊し、人材も集まらないという悪循環となります。まずは生産性の効率化を図り、利益を上げ、業務に余裕ができた人材を新分野に投入し、ゼネコンやコンサルでは、業戦略、人事制度、各種システムを統一し、生産面と営業面の効率化を行わねばならず、仕事は山積んでいます。子会社の再編も課題です。

二次製品業界初の対等合併、つまり同じ規模の会社が横につながるの初めての試みです。ゼニス羽田でもホクコンでもない、新しいベルテクスの上り上げに向け、加速化を図っていきます。



雨水貯留槽M・V・P・システム



組立式超大口徑推進管

経営統合を機に業態変革

◆今年の抱負